



# 山形大学 (山形県)

地域の人や風俗習慣等、山形文化の魅力にどっぷりはまりましょう

## ■大学紹介

### ① 大学の特色及び概要

山形大学は1949年に創設されたが、その歴史は、19世紀、1878年の山形師範学校創立に遡る。今日の山形大学は、6学部、7研究科、1教育機構から成る。教員約850人、総学生数約9,000人を有し、山形県内に設置されている主たる総合大学として、研究・教育の中心となる役割を果たしている。その教育理念は、総合大学としての特徴を活かし、自然科学、人文・社会科学が連携した専門教育と幅広い教養教育を行うとともに、地域社会に根ざし国内はもとより国際的にも活躍できる人材を育成することである。また、優れた研究成果を生み出すことにより、「自然と人間との共生」という目標を実現し、社会に貢献することを目指している。

### ② 国際交流の実績

海外機関との交流協定数：39カ国・地域177機関

### ③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数295人、日研生 1人

2021年：留学生数246人、日研生 0人

2020年：留学生数219人、日研生 1人

### ④ 地域の特徴

山形県は、南東北に位置している。四季に恵まれ、自然を身近に感じることができる。県内全域にわたって温泉を楽しむことができ、温かい人々とふれあうことができる。

## ■研修・コースの概要

### ① 研修・コースの目的

b)主に日本語能力の向上のための研修

### ② 研修・コースの特色

山形大学には、日本語・日本文化に関する幅広い領域の科目があり、充実したコースが組まれている。日本語科目は、研究に必要な言語能力を伸ばすことを目指して科目が構成されている。多文化交流科目と各専門科目では、言語学、文学、歴史、異文化交流、社会学、地理、経済、政治、音楽、美術、教育など様々な角度で日本文化を学ぶことができる。また、1年計画で自らの選択したテーマに沿って研究プロジェクトを行うことが本プログラムで特に力を入れている点である。このプログラムでは、口頭発表をし、修了論文を書くことを目指している。

### ③ 受入定員

4名（大使館推薦2名、大学推薦2名）

### ④ 受講希望者の資格、条件等

- 1) 主専攻あるいは副専攻が日本語・日本文化に関する分野であること。
- 2) 日本語能力試験 N2合格以上またはそれに準ずる日本語力を有することが望ましい。日本語を使って自分の考えが表現でき、日本人と話し合うことのできる日本語力を持つこと。



さくらんぼ



べにばな

### ⑤ 達成目標

- ・山形の人々との交流を通して、地域に根ざした日本文化への理解を深める。
- ・専門科目を受講して日本語による学術的な内容の理解力を養う。
- ・自ら行う研究プロジェクトで、修了論文を作成し、報告会で発表することができる運用力を身につける。

### ⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2023年10月上旬 ～ 2024年9月下旬

（在籍期間：2023年10月1日～2024年9月30日）

### ⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年9月



べにばな染体験



## ⑧ 研修・年間スケジュール

日本の家庭訪問、見学旅行、地元の祭り(例:花笠まつり)などを通じて、地域の人々と知り合い、日本文化を体験することができる。そのほか、茶道、生け花、こけし絵付け、座禅、着付けなどへの参加を予定している。

- 9月下旬: 渡日
- 9月: オリエンテーション
- 10月: 留学生研修旅行
- 11月: 留学生懇談会
- 1月: スピーチ発表会
- 4月: お花見
- 8月: 留学生日本語発表会  
花笠まつり
- 9月下旬: 帰国

### 研修旅行 (羽黒山と山伏)



## ⑨ コースの修了要件

「⑩研修・コース科目の概要・特色」の要件を満たし、本プログラムを修了した者には、修了証が発行される。また、成績証明書が発行される。

## ⑩ 研修・コース科目の概要・特色

### 1) 研修・コース科目の特徴

授業は前期(4~8月)、後期(10~2月)各15週間講される。Iは、日研生のための必修科目である。選択科目の授業は、I、II、IIIの三つの種類がある。Iは留学生向け日本語科目で、II、IIIは日本人学生とともに学ぶ科目である。このプログラムを修了するには12科目以上の履修が必要で、そのうち6科目以上は、I、IIの分野から選択するものとする。

### 2) 研修・コース開設科目

#### I) 必修科目(各15週)

研究プロジェクトI: [後期]

研究プロジェクトII: [前期]

本プログラムの必修科目。指導教員の個別指導を受けて選んだテーマについて、日本語で研究レポートを書く。学期の最後には、各自のテーマについて最終発表を行う。

### II) 選択科目

I、II、IIIの各科目は、すべて選択科目である。I aの日本語中級1「総合」、日本語中級2「総合」はいずれも週4コマであるが、他の授業は全て週1コマである。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

IIの科目では、地域の人々と交流する。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

#### I 日本語科目

##### a. 基盤共通教育日本語科目 [前期・後期]

日本語中級1「総合」	中級前半
日本語中級1「読む」	中級前半
日本語中級1「書く」	中級前半
漢字3	中級漢字
日本語中級2「総合」	中級後半
日本語中級2「読む」	中級後半
日本語中級2「書く」	中級後半
漢字4	中級漢字
日本語上級1「話す」	上級前半
日本語上級2「話す」	上級後半
日本語上級1a「書く」	上級前半
日本語上級1b「書く」	上級前半
日本語上級2a「書く」	上級後半
日本語上級2b「書く」	上級後半

日研生は主に日本語上級から選択して履修します。「話す」では、大学に必要な会話の練習、発表やディスカッションに必要な日本語の練習を行います。「書く」では、レポートや論文など、大学の学習・研究活動に必要な文章を書く練習を行います。



花笠まつり

### b. 人文社会科学部専門日本語科目

日本語 a N1対策・スピーチ [前期]

日本語 b 読解・聴解・作文 [後期]

## II 日本文化・多文化交流・地域学科目

### 日本文化入門 [前期・後期]

地域のリソースを活かし、茶道、こけし絵付け、平清水焼き、座禅、温泉などの日本文化を体験しながら学習する。

### 多文化共生を考える [後期]

授業内での異文化交流体験を通して、異なる言語や文化的背景を持つ他者を知り、多様な背景を持つ他者と共生していくために必要となる態度とコミュニケーションスキルを身につける。

### フィールドワーカー共生の森もがみ [前期]

山形県北部の最上地方で地元の達人を講師に、森と関わる暮らしや独特の祭りの山車作り等を体験する。

### 異文化理解演習 [前期]

通過儀礼を通して日本文化・社会及び台湾文化・社会を理解するようになる。そして、異なる文化的な背景を持つ者(日本人学生、留学生)同士で議論することによって異文化理解の知識を身に付ける。

## III 人文・社会科学科目

### a. 人文社会科学部開講科目

#### 日本語学特殊講義 b [後期]

日本語の歴史について、特に文献研究の立場から考察を進める。

#### 日本語学概論 [前期]

日本語の歴史について解説する。

#### 日本語文法概論 [後期]

現代日本語の記述的文法を解説する。



山寺  
(奥の細道)

## 日本語文法特殊講義 a〔前期〕

現代日本語の複文の意味・文法的性質について解説する。

## 日本語学演習 a〔前期〕

日本語の歴史分野に関する文献を読み進める。

## 日本語教育学概論〔前期〕

日本語教師になるために必要な基礎的な知識を学ぶ。

## 日本語教育学基礎演習 a〔前期〕

典型的な日本語初級の授業の流れを理解し、教室活動をデザインする。模擬授業を行い互いに評価・分析する。

## 日本語教育学特殊講義 b〔後期〕

日本語教師になるために必要な要件の一つである、日本語教育能力検定試験の過去問を解き、練習及び解説を行うことで、日本語及び日本語教育学の基礎知識を固める。

## 映像学概論〔前期〕

映画の分析論。日本映画の分析を含む。

## 日本古代中世文学特殊講義 b〔後期〕

和歌・連歌の形態を学び、歌合・連歌会を体験することで短詩の役割を理解する。

## 日本近現代文学特殊講義 b〔後期〕

明治以降平成までの小説、詩、評論などを読む。

## 地誌学〔後期〕

地域で観察されるさまざまな現象と歴史的、自然的風土との関係を理解する。

## 比較文化・文化交流史概論〔後期〕

近現代の日米関係を軸として、比較と交流史の視点から、日本文化の変容について論じる。

## 日本歴史文化論（日本学入門）〔前期〕

日本と東アジアの歴史的交流とその意義について基本的な理解を深める。



テーブルトップイベント

## b. 地域教育文化学部開講科目

### 国語学概論 I〔前期〕

音声・音韻、書記、語彙、方言を中心に日本語の概要を解説する。

### 国語学概論 II〔後期〕

文法、敬語、日本語の歴史を中心に日本語の概要を解説する。

## c. 基盤共通教育開講科目

特定の分野に偏らず、幅広い学問分野を学ぶことができる。自分で関心がある科目を選択し、履修する。〔前期・後期〕

## ⑩ 指導体制

### 1) プログラム実施教員

学士課程基盤教育機構所属の教員が実施する。

内海由美子 教授 日本語教育

尤銘煌 教授 社会学

今泉智子 准教授 日本語教育

### 2) 指導教員

人文社会科学部、地域教育文化学部、または学士課程基盤教育機構教員が研究プロジェクトのための個別指導を行う。研修生は指導教員の部局に所属する。

## ■ 宿 舎

短期留学生は60名まで山形大学山形国際交流会館などの宿舎に入居できる。宿舎は、大学へ自転車などで通学できる場所にある。（例：山形国際交流会館（香澄町）単身室）

1) 宿舎費（1ヶ月）+共益費（1ヶ月）+保証積立金 5,900円 + 4,000円 + 30,000円

2) 宿舎設備・備品（単身室の場合）

ベッド、机と椅子、エアコン、ガスFF暖房機、冷蔵庫、食器戸棚、本棚、洋服ダンス、ミニ・キッチン、シャワー、トイレ

## 小白川キャンパス



山形国際交流会館

## ■ 修了生へのフォローアップ

これまでの修了生たちと、本学で指導に当たった教員たちとの間では継続して連絡がとられている。修了生は、ほとんどが日本か母国で大学院に進学し、さまざまな分野でキャリアを積み始めている。一人は、山形大学で修士号を取得後、国際交流の仕事に携わりたいと山形大学職員に応募し、採用された。その仕事を経て、現在は、中国でトヨタ自動車に勤めている。また、別の一人は、フィンランドで修士課程在学中に自ら翻訳会社を立ち上げ、翻訳に携わった本について、本学で講演会を行った。現在通訳としても活躍している。シンガポールの大学を卒業後、日本JTで働く経験を積んだ修了生は、本学の留学生懇談会で後輩たちに経験を語り、交流を深めた。



## ■ 問合せ先

<担当部署>

山形大学エンrollment・マネジメント部国際交流課

住所：〒990-8560

山形県山形市小白川町一丁目4-12

TEL： +81-23-628-4017（直通）

FAX： +81-23-628-4849

Email： yu-rgkokusai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

<ウェブサイト>

山形大学：

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/>